

平成17年度学術創成研究費中間評価結果

研究課題名	日本における資本市場の形成と構造 - 歴史分析と国際比較	研究代表者名	伊藤 正直
-------	---------------------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア．高い
- イ．やや高い
- ウ．やや低い
- エ．低い

コメント：テーマはやや伝統的であるが、社会的な要請に答える有意義な研究であると認められる。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア．予定以上に進展している
- イ．概ね予定どおり進展している
- ウ．やや遅れている
- エ．遅れている

コメント：大量の資料と格闘中で、山一資料に関しては期間中に成果がまとまるかに懸念が残されている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア．研究経費
- イ．設 備
- ウ．組 織
- エ．そ の 他

コメント：計画時の想定を越えて大量の資料に直面して、研究のスケジュールと経費のバランスの両面で、問題が生じているように見受けられる。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア．期待以上の成果をあげている
- イ．概ね期待された成果をあげている
- ウ．期待された成果をあげつつある
- エ．期待された成果はあがっていない

コメント：独創的な研究成果としての輝きは薄いですが、基礎資料の整備の努力の成果は認められてよい。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア．有機的に連携が保たれている
- イ．あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ．その他

コメント：基礎資料の収集・整理に大きな努力が要求されているため、先端的研究が有機的に行われているという印象は薄い。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア．効率的・効果的に使用されている
- イ．あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ．その他

コメント：特になし。

[研究課題の総合的な評価]

区分	評価基準	チェック欄
A +	研究の更なる発展が期待でき、より一層の推進を期待する	
A	順調に研究成果を上げつつあり、現行のまま推進すればよい	
B	概ね順調に研究が進んでいるが、今後一層の努力が必要である	
C	現状において研究成果が期待できず、研究経費の減額又は研究の中止が適当である	

[総合的な評価についてのコメント]

コメント：基礎資料の整備に主眼をおいているために、学術創成という表現から期待される革新的な研究の誕生といえる成果は少ない。社会的な要請がある基礎資料の整備という点では着実な成果が得られつつあるが、想定外の膨大な資料の整理に時間を割かれ、期間内に研究が完成するという確かな見通しは得られているとは言い難い印象が残されている。この成果の受け皿をどう構想して、広く公共的な利用に供される基礎資料をどう完成させるか、いまの段階からよく考えていただきたい。